

議員全員協議会会議録

平成26年12月17日

宮古市議会

平成26年12月宮古市議会議員全員協議会会議録目次

(12月17日)

議事日程	1
出席議員	2
欠席議員	2
説明のための出席者	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
説明事項(1)	3
説明事項(2)	15
閉 会	17

宮古市議会議員全員協議会会議録

日 時 平成26年12月17日(水曜日) 本会議終了後
場 所 議事堂 本会議場

○

事 件

〔説明事項〕

- (1) JR山田線について
- (2) その他

出席議員（27名）

1番	今村正君	2番	小島直也君
3番	近藤和也君	4番	佐々木清明君
5番	白石雅一君	6番	鳥居晋君
7番	中島清吾君	8番	伊藤清君
9番	内館勝則君	10番	北村進君
11番	佐々木重勝君	12番	須賀原千エ子君
13番	高橋秀正君	14番	橋本久夫君
15番	古館章秀君	16番	工藤小百合君
17番	坂本悦夫君	18番	長門孝則君
19番	佐々木勝君	20番	落合久三君
21番	竹花邦彦君	22番	松本尚美君
23番	坂下正明君	24番	茂市敏之君
26番	田中尚君	27番	加藤俊郎君
28番	前川昌登君		

欠席議員（1名）

25番 藤原光昭君

説明のための出席者

市長	山本正徳君	副市長	山口公正君
副市長	名越一郎君	総務企画部長	佐藤廣昭君
都市整備部長	高峯聡一郎君	危機管理監	山根正敬君
企画課長	山崎政典君	都市計画課長	中村晃君
危機管理課長	戸由忍君	企画課主査	西村泰弘君
企画課主任	根市昇君	都市計画課復興拠点整備室長	多田康君

議会事務局出席者

事務局長	上居勝弘	次長	佐々木純子
主任	菊地政幸		

開 会

午後 3時22分 開会

○議長（前川昌登君） それでは、ただいまから議員全員協議会を開会します。

ただいままでの出席は27名でございます。会議は成立しております。

次第に従いまして会議を進めてまいります。

○

説明事項（１） JR山田線について

○議長（前川昌登君） 説明事項の（１）、JR山田線についてを説明願います。

山本市長。

○市長（山本正徳君） それでは私のほうから、説明をさせていただきたいというふうに思います。

JR山田線につきましては、平成23年3月11日の震災で被災して以来、運休が続いており、3年9カ月が経過をいたしておるところであります。鉄道復旧とまちづくりとの調整につきましては、JR山田線復興調整会議の場で協議を重ね、原形復旧する場合の費用140億円はJR東日本の負担、まちづくりに伴う線路のかさ上げなど、掛かり増しの費用70億円につきましては自治体の負担という内容で、おおむね調整済みの状況となっております。

このような中、本年1月にJR東日本から山田線の三陸鉄道による運営の提案を受け、この対応につきまして県が中心となって地元自治体、三陸鉄道、JR東日本との協議を続けてきたところでございます。今回示された三陸鉄道運営提案におけるJR東日本の支援内容は、移管協力金30億円、軌道の強化、利用促進への協力などとなっております、地元自治体や三陸鉄道の要請事項に沿った内容であると評価をいたしております。

また、去る12月5日に開催されました住民説明会でも鉄道の復旧を優先してほしいという意見が出ており、多くの市民が一日も早い鉄道の復旧を望んでいると感じております。山田線の三陸鉄道による運営の提案につきましては、年内に沿岸市町村首長会議を開催し、方針を決定することといたしております。

私は、震災からの復興をなし遂げ、沿岸地域をさらに発展させるためには山田線を復旧させ、三陸地域を鉄道でつなぐことがぜひとも必要であり、今回の提案の受け入れを決断したいと考えております。議員各位のご意見を伺いたいと存じます。

なお、JR東日本の提案内容や住民説明会の結果につきましては、担当の山崎課長のほうから説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

○議長（前川昌登君） 山崎企画課長。

○企画課長（山崎政典君） それでは、お手元に資料が行っていると思いますので、資料に沿って説明をさせていただきます。

まず、1ページをごらんいただきたいと存じます。

JR山田線、宮古・釜石間に関するこれまでの主な経過でございます。震災の3月11日から、これまでさまざまな経緯ございましたけれども、折につけ説明をしてきた部分もございますので、ことしに入ってからの内容について一番下のほうの3つについて説明をさせていただきます。

まず、先ほど市長から説明があったとおり、本来、復興調整会議というのは被災した区間をどうするかという部分話し合う場でございましたけれども、1月31日に、その場においてJR東日本から三陸鉄道による運営の提案がされたところでございます。これを受けまして、その内容につきましては、2月14日に議員全員協

議会のほうで、その内容を説明させていただきました。

その後、県、それから山田線の沿線自治体等を中心にJR東日本と協議してまいりました。その結果として、岩手県の判断として、もう山田線だけの話ではなく、三陸鉄道全体で話し合うべき時期が来ているというご判断のもとに、8月7日に三陸鉄道の関係する沿岸市町村、12市町村を集めた上での会議がございました。この8月7日の会議内容につきましては、8月12日の総務常任委員会でご報告をさせていただいております。

また、同様に協議状況の確認ということで、11月25日にも2回目の沿岸市町村首長会議が開催されました。これも11月26日に総務常任委員会のほうに説明をさせていただいております。

次に、JR東日本の提案内容と今後の対応について、2ページですけれども、こちらのほうについて説明をさせていただきます。

1点目。山田線、宮古・釜石間は三陸鉄道が運営をする。

2番目。鉄道の復旧工事はJRが行う。これにはただ費用の負担区分がございまして、被災した部分の原形復旧費用はJRが負担、約140億円。それからまちづくりに伴うかさ上げとか、そういった部分については原形復旧を超える費用、いわゆる掛かり増しというふうに言っていますけれども、これは自治体が復興交付金等で負担をする、70億円。いずれもJRの試算でございますので、これがそのとおりの金額になるかどうかというのは、まだ最終的にはやってみなければわからないという部分もございます。

3点目。車両、地上設備、用地は三陸鉄道または自治体が保有するというので、基本的に地元が受けるということでございます。これを三陸鉄道が受けるか、自治体側が受けるのか、これらはまだ最終的な判断は下しておりません。自治体が受けたほうが、鉄道軌道整備法に絡む計画をつくった上での国庫補助を受ける場合に有利だというようなところもございます。そういった部分も含めながら、これは今後検討していく内容だと思っております。それから、三陸鉄道による運営に対してJRが支援をするということで、その支援の内容が車両、地上設備、用地を無償譲渡すると、移管協力金として30億円を負担すると。それから軌道、これは宮古・釜石間の軌道でございます。強化するというので、レールとか枕木の交換といった部分も含めております。これは、被災をしていない箇所も行うということで、これも詳細はまだ今詰めているというところでございます。

それから、山田線の宮古・釜石間と南北リアス線を効率的に運行する。基本的には、もし宮古・釜石間を三鉄でというふうになりますと、三陸鉄道が久慈から盛まで一本の路線というふうになりますので、信号設備等の統一とか、いわゆる検修庫と車両の基地みたいなものも、その拠点が必要になってきますので、こういった部分もJRが支援をすると。

それから、人的な支援を行うということで、宮古・釜石間、55.4kmございますので、これを受ければ当然人的な増加が見られます。この部分を、いわゆるJR東日本の職員の形態はまだはっきりはしていませんけれども、一応、賃金等はJRが負担をするというのは明言をしております。そこで、人的支援を受けて車両の運転とか施設の保守・点検、特に三陸鉄道とJRの山田線の一番大きな違いは、踏切の数でございます。三陸鉄道、南北リアス線、合わせて3カ所しか踏切がございません。ところが宮古・釜石間は52カ所ほど踏切がございました。三陸鉄道がそこを一番不安に思っているわけがございまして、そこら辺の保守費用等もかかってくるということであります。

そして、最後に地域活性化や利用促進に協力するというので、観光キャンペーン、その他につきましても協力をしていきたいという、こういう内容でございました。

そこで、今後の対応でございますけれども、各市町村が議会や住民に説明等を行った上で、年内に改めて沿岸市町村首長会議を開催するというので、来週開催する方向で今調整しております。そこで方針を決定したいというのが現在の県の考え方でございます。

それから、移管協力金を活用した補助負担ルール、それから運賃の激変緩和の方法、これらについてはJRを交えずに地元で協議をするということになりますので、この内容はこれまでの沿岸市町村首長会議ではまだ議論しておりません。これは今後、関係市町村と1ページに書いてある沿岸市町村、洋野から陸前高田までの12市町村、それに県と三陸鉄道、この中で新たなルールをつくっていくということになります。

それから、きのう竹花議員とか田中議員からもご質問がありました、譲渡後のいわゆる通常災害、そういった部分の国庫補助、こういった部分については、必要に応じて国に支援を要請していくという部分も必要だなというふうに考えております。

そして、最後、3ページでございます。

12月5日に開催した住民説明会の開催状況でございます。場所はシーアリーナの3階大会議室。市長ほかの説明員として出席をいたしまして、住民で参加いただいたのは41名、それから報道機関も記載のとおり来ております。

内容とすれば、私からJR山田線に関するこれまでの経過、それからJR東日本の提案内容、今後の対応ということで説明をいたしました。住民説明会ということで、1枚のペーパーの情報量を少なくして説明しましたので、きょうの全員協議会のこの1ページ、2ページには全て凝縮されておりますので、きょうはあえて住民説明会の資料は添付をいたしておりません。主な質疑の内容は、基本的に5点ほどございましたが、記載のとおりでございます。反対というような声は基本的にはない、鉄道復旧が大事だとか、やはり宮古・盛岡間の部分を心配を相当されているという部分もわかりました。これらも当然、三陸鉄道が縦貫鉄道だけでもつということではございませんので、宮古・盛岡間、それから釜石線、大船渡線、こういった部分の今後のいわゆる存続も含めた部分も大事な部分だというふうに思っておりますので、そこはJRに対しても強く要望していきたいというふうに考えております。

以上で説明を終わります。

○議長（前川昌登君） 説明が終わりました。

この件について、何か。

松本議員。

○22番（松本尚美君） すみません。ちょっと何点かお伺いしたいと思います。

まず、鉄道の復旧工事はJRが行う、費用負担の区分、まちづくりに伴う鉄道のかさ上げなど、原形復旧を超える費用を自治体が負担するが約70億円。これは内容を把握されているのですか。

○議長（前川昌登君） 山崎企画課長。

○企画課長（山崎政典君） 宮古市でいいますと、藤原の避難道のために山田線をまたぐ部分で、かさ上げはしないんですけれども、ボックスカルバートを1つ増設、それから踏切の移設を考えております。それからもう1つ、法の脇地区にいわゆる津軽石の防災拠点、復興拠点等への流入を防ぐために、いわゆる湾内の防潮堤とはまた別にかさ上げが必要でございます。その部分で線路が若干かさ上げになるので、その部分の2カ所が宮古市とすれば該当します。山田のほうとか、大槌ですと、まちづくりに関する盛り土が必要なので、そういった部分もこの掛かり増しという部分に含まれているということになります。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） 内容については、おおむね宮古区間についてはわかりましたが、この額が妥当なのかどうかという精査ができていないかということです。

○議長（前川昌登君） 山崎企画課長。

○企画課長（山崎政典君） これはあくまでJRが示した金額でございます。個別の事業については、基本的には復興交付金を使う関係上、復興庁の査定が入るということで、その部分は今現在、藤原の部分も法の脇の部分も調査、設計までは費用ついていますので、最終的な事業費はこれからということになります。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） そうすると、トータルとして釜石・宮古間が仮に70億が妥当な金額だと、そして、それを距離ではなくて、それぞれの沿線市町村の事業費を積み上げたものを、国からお金をもらいながら払うということですね。わかりました。

それから、もう一つ、三陸鉄道による運営に対してJRが支援するという部分で、人的な支援を行う、地域活性化や利用促進に協力するということなんですけど、これは期間は示されているんですか。

○議長（前川昌登君） 山崎課長。

○企画課長（山崎政典君） その1つ上の補助負担金のルールとかそういった部分も含めて、期間はまだ具体的には煮詰まっていないということでございます。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） まだないと。これも結構大きなポイントになりますね。JRがこの部分の支援をして人的にサポートする、いろんな面でサポートする。これを今度三鉄が独自でやるとすると、その分を何とか手当てしなくてはならないということにも、人的な部分は特になるんですよね。これ何人ぐらいでどうなのかという、このボリューム含めて期間、これはやっぱり早く確認しないといけないんじゃないのかなというふうに思いますが。

○議長（前川昌登君） 山崎企画課長。

○企画課長（山崎政典君） それは松本議員がおっしゃるとおりだというふうに思います。

JRからの人的派遣を受けながら、宮古・釜石間の特に保線に係る費用等の見きわめというのをしていく上でも、このJRの人的支援は長ければ長いほうが三陸鉄道にとってメリットはあるなというふうに考えておりますので、そこら辺はこれからJRに対しての交渉の中で詰めていく部分だというふうに考えております。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） 市長は前段で、それを聞く前にもう一つ聞きますかね。

宮古・釜石間それぞれ沿線市町村の範囲の中で、それぞれ今改善すべき、全体的にはレールを交換する、それから枕木を交換するということが説明がありましたけれども、例えば踏切の幅であるとか、幅員であるとか、前後の道路に合わせて広げるとか、それから河川が交差している部分、大小問わずですね、こういった部分で改善が必要だという部分も、今回それぞれ沿線市町村はチェックをして、JRに対して改善をとすることに今時点になっているのかどうか。把握ができていないかどうかがです。

○議長（前川昌登君） 山崎企画課長。

○企画課長（山崎政典君） 例えば山田線の中でも、津軽石で排水路と交差する部分とか、そういったご意見もいただいているところもありますし、いずれもっと細かい部分についてはこれからも当然協議が必要だという

ふうには思っております。ただ、今回は大筋的なものとしてのJRとのいわゆる覚書の締結に向けた交渉に入っていくかどうかという判断でございますので、そこら辺のところは、それぞれの市町村が抱えているさまざまなもっと細かい話もあるかと思っておりますので、そこらをまた協議する場はあるというふうを考えております。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○2番（松本尚美君） 課長からすれば、細かい話なのかもしれませんが、さっきの復興交付金を導入してやるという部分、いわゆる掛かり増しの費用の部分、これは大きいかもしれませんが、でも、これがないとすれば、たればの話なんですけど、従前から抱えている課題でとても宮古市がやれるような、仮に小さい箇所であっても、今は運転していないからやりやすいという環境ですよ。これを運転させながらやると、とてもではないけれども宮古市で対応できるようなものではないという。踏切の改善だって、1億、2億かかるわけですよ、1カ所です。ですから、細かい話と捉えないで、これはやっぱりこの際早くチェックをして、そしてテーブルにのせる準備をまずしておかなければならないと私は思うんです。これは決して細かい話ではないですよ。

○議長（前川昌登君） 山崎企画課長。

○企画課長（山崎政典君） そこは表現の部分で、大変私もちょっと、細かいというのはちょっと失言だったかなというふうには思いますが、そういった松本議員がおっしゃっているとおり、とまっている間だからこそできるというのはそのとおりでありまして、建設工事、走ってからになるとさまざまJRも許可して、JRというか、もうなってくるわけですけども、いろいろあるとは思いますが、そこら辺はしっかりと宮古のエリアの中で改善が必要なところはチェックをした上で対応していきたいというふうに思います。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○2番（松本尚美君） これは、企画で全てやれとは私は言っていないので、これは副市長ぜひ、皆さん忙しいので、だめであればどこかお願いしてもいいですから、専門家をお願いしてもいいですから、早く把握して、そうしてやらないと、私が知る限りの箇所でも運行している間は、単に建設工事だけではなくて、仮設の線路をつくってやらないとできないような場所もあるわけです。ですから、そんなに私は100万、200万の話ではなくて、場合によってはもう億単位になる、また、JRの建設工事というのは非常に割高だというふうに思います。実際、今、千徳跨線橋をやっていますが、普通の県工事であるとか、市工事のスピードではやっていないし、これは本当に県も大変だなど、逆にですね。JRが大変なんではなくて、県が大変だなどという思いがしています。そこははっきり早くしたほうがいいだろうというふうに思います。

それから、もう一つ、今後の対応の中で住民説明会を順次行っていく、これはこれでいいと思います。ただ、我々も含めて住民が理解をして、「いい、じゃ三鉄の運営のほうがいいな」、または、「やむなし」という消極論もあるかもしれませんが、これを判断するには、この20年なり、30年なりの移管した後の収支がどうなるのか。当然、国鉄は30億円を負担する中で赤字補填ということもありましたから、赤字になると、JRが直営でやっても赤字。三鉄が運営しても赤字になる。要するに収支計画がやはりどうなるのかというのがやっぱり心配事ですよ。こういった収支計画のシミュレーション、そのとおりいくかどうかというのはやってみなければわからないというのは当然あるんでしょうけれども、それによって竹花議員もやりとりしているこの30億を赤字補填で何ぼ使うの、何年で、そういったこともあるわけです。

ですから、そこは三鉄が中心となってシミュレーションをつくるのかもしれませんが、でも、やはり市長が判断して決断してやる、そして住民説明するためには本当に大丈夫なの、少なくとも20年間は大丈夫だとか、10年間は大丈夫、1年では困るんですけども、やはりそういったいわゆる経営計画がやっぱりないといけな

万が一にも赤字補填したものが、基金がなくなっていけば、当然住民負担がまた出てくるわけですね。住民がダイレクトに出すということではないかもしれませんが。これは行政という単位の中で出すのかもしれませんが、形を変えて運賃補助するといってもこれは税金使う話なんです。だから、そこが気になるので、収支計画は誰が責任持って、市長が決断する前に本当はつくったほうがいいんだろうなと、そして理解が進むようにしたほうがいいのではないのかなと私は個人的には思いますが、どうでしょうか。

○議長（前川昌登君） 山崎企画課長。

○企画課長（山崎政典君） 竹花議員からもその点ご質問がありました。

基本的に県と三鉄の間でそこまで詰めているかどうか、ちょっと我々も市町村側には資料は来ておりません。松本議員がおっしゃるとおりだというふうに思います。そこは、これから基本的に先ほど言った負担金とか補助金のルールも詰めていかなければならないので、県と三鉄のほうには再度収支の計画シミュレーション、大きく捉えると、この収支計画をつくる上で課題が収入ですと、利用者見込みをどうするかという部分が震災で落ち込んだ部分をどう捉えるかといった部分がございます。それから、支出のほうでいいますと、先ほど言った保守、特に踏切等を含めた、それが今まで三陸鉄道が経験したことがない部分の保守経費ですので、そういった部分の回数とか、そういったものもJRさんから資料提供いただかないと積算できないという部分もあるかと思えます。おっしゃることは非常に理解はできますので、次にご説明するときにはそういったものも含めた形でぜひ説明できるように、県と三鉄のほうには要請していきたいというふうに考えます。

〔松本議員「指名しないの」と呼ぶ〕

○議長（前川昌登君） 竹花議員からも手が上がっていますが。

○22番（松本尚美君） じゃ、最後にするから。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） 質問というわけではない、今、課長のお答えになったことにとどめを刺すというか、だめ押しするわけじゃないんですが、やっぱりここをしっかりと見せない、見えないと、仮にこれが後で違うということが、これは計画ですからあり得ることかもしれない。でも、スタート段階ではやはり決断するという段階以前には、これはやっぱり私は必要なこと。50数km線路を抱えるということになれば、私はこれは草刈りだけだってえらいお金かかるな、単にですよ。だから、そういった草刈りも54kmやるといって100万、200万では間違いなくできないですよ。それにプラスアルファの部分が、いわゆる維持するだけですよ。もうける、もうけないじゃなくて、維持するだけでもコストはかかりますから、やっぱり収支計画はそういったものもしっかりと、限りなく正確を期した積算をして、公表していただくということが、これは判断するにも極端に言えば前提なんじゃないのかなというふうに思いますから。いいですか、市長。

○議長（前川昌登君） 竹花議員。

○21番（竹花邦彦君） 私は、基本的に15日の一般質問の中で、私が考えている課題点についても市長とやりとりをさせていただきました。十分な議論ができたかどうかという点は時間の関係もありますので、そういう思いを持っております。

改めて、きょう市長のほうから三陸鉄道運営移管を決断したい、きのう田中議員との一般質問のやりとりの中でも、そういうお話は市長のほうから再質問の中であったわけでありましたが、改めてきょうそういう話がありました。私としてもそのことについて重く受けとめたいというふうには思っております。

ただ、私は、限られた時間の中で、つまり年内という意味ですね、こういう時間の中でやっぱり議会、市民

の方々の十分な合意形成を図る上でどうなのかと。もう少しやっぱり1月なり、2月なりという時間が許されるのであれば、そういう中で判断をすべきものだというふうに思っておりますし、同時にまだやっぱり十分に説明し切れない点も含めて、不明な点もあるわけですね。先ほど松本議員のほうからもいろいろ話がありましたが、質問をしたくても、これからの協議だという部分が余りにも多過ぎる。そういう中で判断を求められても、ちょっと私どもも容易でないなという思いは持っております。ただ、15日も申し上げましたが、そういう判断をする時期には私も来ているということについては認識をしておりますが、そういう一つの課題を持っているということも改めて申し上げておきたいというふうに思います。

そこで、これもお答えできるかどうかわからないんですが、まず最初に確認をしたいのは、先ほど山崎課長のほうから説明がありました。私は、災害等が起きた場合の対応についてもお話をしたわけでありますが、先ほど説明では地上設備、用地については三陸鉄道または自治体が保有することについては決まっていない。そういうJRからは提案をされているけれども、まだ決まっていませんよ。ただ、これは宮古市としても、あるいは全体としてもそれは受け入れやむなしということにあるんでしょう。だから、ここね、まだ決まっていない、場合によっては保有をしないということもあり得るというふうに、いいところの言い方では聞こえてくるわけなので、そこはまずはっきりさせていただきたいと思います。

○議長（前川昌登君） 山崎企画課長。

○企画課長（山崎政典君） 私が決まっていないということで説明したのは、三陸鉄道か自治体かというところが決まっていないというふうに説明をしたつもりではおります。

○議長（前川昌登君） 竹花議員。

○21番（竹花邦彦君） 了解をしました。いずれにしても、どちらかにするにしても、そういうことになるということですよ。そこで、改めて質問をします。

JRは、この復旧についてはJRが責任を持って復旧させると言っているわけですが、何年で復旧させるというふうに言っているんでしょうか。1年なのか、2年なのか、5年なのか。なぜ私がこういうふうに聞くのかというと、これはかつての岩泉線でも同じ問題が起きたわけですよ。私はこの岩泉線の廃止のときにも、県はあそこのトンネルを何年で復旧させるのか、そこの最終確認を含めてやった上で判断をすべきだというふうに申し上げましたが、残念ながらそこが確認をできないままに廃線合意をした。結果として、県が10年間でトンネル復旧をさせると。したがって、市長も10年かかるという話はこのことで、非常に県のほうに抗議をしたわけでしょう。それであれば廃線合意も判こを押したくなかったということも含めてですよ。

ですから、私はある意味ではそういうことを繰り返さないためにも、仮に三陸鉄道が引き受けるといった場合にJRは何年で復旧させるんだと。ここはしっかり私は確認はしておかなきゃならない点だというふうに思うんです。このことが、いわばその段階にいていないという話になるかもしれませんが、市もわからなければ私どももわからないわけで、その中で、いや合意をしましたと、結局5年だそうで、10年ですと話す中でえっという話になり得るかもしれない。だから、改めてお聞きしますが、何年で復旧させると言っているんですか。

○議長（前川昌登君） 山崎企画課長。

○企画課長（山崎政典君） 復旧に要する年数というのは、県は言われているかどうかちょっとわからないんですけども、市町村としては把握をしていないというのが実態であります。そこも協議の部分になるかとは思いますが。

○議長（前川昌登君） 竹花議員。

○21番（竹花邦彦君） だから、私は25日の沿岸市町村首長会議の中でそういうものも含めて、またやりとりがないままに、いわば県のほうから方針が示されて、わかりましたという話になっているんじゃないですかということも含めて、私は思っているわけです。だから本来であれば、市町村側としてもそういう点はどうなっているんですかと、交渉のテーブルにのっているんですか、のっていないんじゃないですか、そこがはっきりしないと私たちもいわば住民や議会に対して説明ができないですよと、こういうことに本来はなるべきだというふうに私は思うんです。ですから、その明らかにされていない、説明されていない部分も多過ぎて、じゃ我々とすれば心配な点もたくさん抱えていると、ここはどうなるんですかという部分が、いわば説明がないままに、わかりました、三鉄でいきましょうという決断をすると、なかなかこれは判断非常に難しいという私は率直に思っているわけです。ですから、ここはしたがってまだはっきりしてないとすれば、市長に、いや何年といつてもちょっと無理かなと思う、ここはどうなんでしょう、市長。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） ちょっと山崎課長、舌足らずだったというふうに思っております。

まちづくりと一緒に鉄道を通して行って、まちづくりができたときに鉄道が通っていると。これが基幹なので、山田の町と大槌の町と、それから鶴住居の町とこれらの町が今、鉄道の駅を中心としたまちづくりということで、今かさ上げをしながらつくっているわけです。これに間に合うようにやるというのが、JRの方針だというふうに私は理解をいたしております。ですから、宮古の場合は、それが早ければもっと宮古の部分は早くいくというような形だというふうに思っております。

○議長（前川昌登君） 竹花議員。

○21番（竹花邦彦君） 裏返しに言うと、あと5年かかるかもしれないということですよ。要するに山田とか大槌の町の復旧づくりがおくれればおくれるほど、山田線の宮古・釜石間の開通もおくれていくということになるというふうに私は捉えたんですけれども、そういう理解でいいですか。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） まちづくりができないと線路が通せないの、かさ上げもしてその上に線路を通すわけですから、鉄道敷を引くわけですから、当然まちづくりと一緒になって、宮古と釜石の間の線路が通ることになるかというふうには思っております。ただ、宮古なり釜石は、例えばJRはここからここまでじゃなければだめだよと言っていますけれども、これからの要望の仕方でも部分開通ということも考えられると。実際、三陸鉄道は部分開通をしていって最後につないだわけですから。ですから、同じような工法なり進行でいくものではないかなというふうに思っております。

○議長（前川昌登君） 竹花議員。

○21番（竹花邦彦君） 市長がおっしゃる意味、ただ、じゃ全体として県沿線自治体は、そこにまちづくりも含めて何年で全線開通をさせようとしているのかということも、逆に言えば問われてくるわけですよ。私はそこは沿線地域住民の方々には、確かに宮古・山田間の部分開通はあり得るかもしれないけれども、全線開通のめどは、いわば県や沿線市町村とすれば、いつをめどに考えているんだということは、やっぱりこれはしっかり示すべきだというふうに思います。

さて、そこで住民合意の問題ですが、先ほど松本議員のほうからもありましたけれども、私も一般質問でお話をさせていただいたように、要は三陸鉄道が受けた場合に中長期的に本当に三陸鉄道の運営や経営がどうな

のだと。ここはやっぱり私は懸念をするわけです。したがって、場合によって資金助成という問題もこれから議論をされていく。

しかし、三鉄でも指摘をしましたが、いずれ赤字が続いていくと基金も取り崩していくわけですから、いつかの時点では基金が枯渇をするということもあり得る。となれば、沿線自治体も含めて三陸鉄道に対する運営費助成という問題がまた起きてくる。だから私は、それが10年なのか20年なのかという問題はあるかもしれませんが。ただ、将来はやっぱりそういうリスクもしようことになるんだと、私はそのことをきちんと住民の皆さんに説明をした上で、そういうリスクを背負うかもしれないけれども、市長が私とのやりとりやきのう田中議員と言ったように三陸鉄道を地域がすっかり守っていく、その部分としてそういうリスクもしっかり考えた上で、将来はそういうリスクを背負いながら、場合によっては地方自治体のいわば運営助成という負担がふえていくことになるかもしれない。私はやっぱりそういうものも含めて、しっかりと説明はしておくべきだと、こう思うんですよ。

その上で、地域住民も、だとすればそういうことが起きないように、しっかり自分たちも利用促進も含めてしっかり取り組みをしなければならぬということにもつながっていくかもしれない。ただ、いずれバラ色でないことは間違いない。だから、私はこういう決断の状況によっては、将来的にはそういういわば行政が税金だけで払っていくわけですから、ある意味では市民負担、地方自治体自体の負担にもこれはつながっていく問題だということは、あらかじめ私はしっかりと市民にはお話をしておいた上で合意形成をする必要があるんだろうというふうに私は思っているわけです。このことについて市長はどうお考えでしょうか。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） 悪いように、悪いように考えると、何もできないというふうに私は思います。まずは、じゃこの問題で、いろんな問題が出てきたときに鉄道を通さないという結論もあり得るということですか。

〔竹花議員「いやいや」と呼ぶ〕

○市長（山本正徳君） そうでしょう。ですけれども、今ある条件の中で、今本当にここで通すか通さないかのぎりぎりのところに来ていると私は思っております。その中で、この条件の中であれば、私は運営をしていくことができるのではないだろうかというふうに思っております。

ただし、先ほど松本議員がおっしゃったように、やはりある程度の経営のシミュレーションというものはしっかり出さなければならぬだろうと。私に欠けている部分はそこだったなというふうに今は反省しております。ある程度そういうものを出しながら、そして我々の負担はこのくらいなんだというものを示しながら進めていきたいというふうには今思っております。

○議長（前川昌登君） 竹花議員。

○21番（竹花邦彦君） 市長が今おっしゃいました、いわばJRの支援内容で十分にやっつけられる、私はそれはそれとしても、将来のいわばそういうリスクも含めて生じる可能性があるのではないかと。だから、ここは十分に市民の皆さんに決断をするとすれば、そういう負担もあり得るかもしれないということを十分に説明した上で、市民の皆さんに判断を、決断を促すべきだという意味でおっしゃっている。ただ、市長が言っているように、十分にJRの30億円という移管協力金の中で将来的にも十分にやっつけられると言うのであれば、私はわかりましたと言うしかありません。しかし、そのときはもし赤字とかそういったものが出た場合に、その市長の責任はどうなるんだという問題も行くということは、これは私は指摘しておきますよ。そういうふうに、それは市長が自信を持って、そうならないというふうに私どもに説明をしたというふうに私は受けとめさせてい

ただきたいと思います。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） 負担が生じるではなくて、今までの負担以上に大きな負担が出るか出ないかという話ですよね。

○議長（前川昌登君） 高橋議員。

○13番（高橋秀正君） 市長、立派だ。沿線首長会議でJRから提案があったことを、今までじっくり考えて、市民の先頭に立って、これは宮古をよくするためにはやっぱり鉄道がないと困るということから受け入れを決定するのだと私は思います。高く評価します。何年かかる、いろいろ質問、今議会でもありました。人口減少を抱えるこの宮古にとって、この鉄道が通るということは住民の悲願でありますので、ぜひ頑張ってほしいと。それから、皆さんが言っているように、石橋をたたくので進むのもいいかもわからないけれども、それがこの宮古の復興をおくらせることになるので、ぜひ進めてほしいということで頑張ってください。

○議長（前川昌登君） 田中議員。

○26番（田中 尚君） 私は、この問題は国営事業だった鉄道事業を民営化の中で、いわば大規模、その民営企業の社会的責任が問われている問題だと思うんですよ。残念ながら市長が何度も言うように、いわばそういうことでJRに言うことを聞かせる手だてがないということである以上は、我々とすれば鉄道を選択したということになれば、そのやっぱり大きな判断に立って、JRが投げしてきたボールをどう我々が受けとめるかという問題だろうと私は思っております。

したがって、この説明資料いただいておりますけれども、私に言わせればこれは非常に順序が不適切。なぜに山田線は三陸鉄道が運営するがトップに来るんですか。復旧・復興工事が先でしょうよ。まずは直す。その直し方についての基本、費用負担含めてですね。だから、私はここは逆に提案したらいいと思います。JRが行う、経費が高くついてだめ。ここは県、市町村で行う。逆提案をしたらどうですか。そして、原形復旧部分はJRが負担する。ただし、140億円の精査だってわからないわけですよ、幾らかかるか。そういう意味では、JRが140億円というこの概算書を示している根拠、やっぱり行政マンがわからないはずがないですから、あるいは専門のそういう会社にかけてもいいですから、やっぱり現時点での復旧費用をしっかり押さえる。まちづくりの部分については、これはどちらかという区画整理とか、いろんな市町村の復旧事業が入ってくる部分であります。自治体が負担してある意味当然であります。したがって、それも復興調整交付金で見るという方向も出ていますから、私はここは鉄道の復旧工事は県、市町村で行う、場合によったら国も入れる。そういう形で逆提案すべきだというのが私の意見です。

その上で、JRが大船渡線、気仙沼線、あつちに対応が違いました。BRTを受け入れました。しかし、これは過渡的な条件としてBRTですよ。JRがその判断をどう思っているかわかりませんが、あくまでも鉄路にこだわったのが我々であります。宮古・釜石間の我々沿線市町村はBRTを蹴飛ばしました。その結果がこんなですよ。であるならば、三陸鉄道のいわば運営に伴って施設をやってくださいという以上は、JRがちゃんと粗相のない状態で施設をよこすのは常識なんですよ。被災したところだけ直して、あとはやるんだかわからないのかわからない、しかもいつまでやるんだかわからない。まちづくりが入ってくるでしょう。それは何年で直せと言ってもできませんよということになったら、これは袋小路になっちゃうんですよ。

したがって、私は次の沿線市町村首長会議で、宮古市の対応とすれば、ここはやっぱりJRが工事を行う、だめ、県と市町村が責任を持って復旧工事を行う。その分の費用はJRに負担させる、そういうふうに私は提

案すべきだと思います。もう一つは、費用の積算を精査かける必要があると思うんですが、いかがでしょうか。私の言いたいことはそういうことであります。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） 田中議員がおっしゃるのは重々にわかります。ただ、相手があることなので、なかなか難しいんですよ。それは理解していただきたい。本当に議員の皆さんが言うことは重々わかるんです。でも、このままの状況でいると鉄道は通りません。ここは決断のときなので、一つ一つ、まだ決まっていないところはこれから決めていきたいと思っておりますので、ぜひご理解いただきたいというふうに思います。よろしくお祈りします。

○議長（前川昌登君） まだありますか。

○26番（田中 尚君） 私は、JRは許否しないと思っております。公共事業のいわば経験いっぱい持っているわけですよ、我々県、市町村は。ただ、鉄道の問題ね、ないですよ実際は。ただ、三陸鉄道を整備した経緯もあります。今回の被災した区間も大企業が意気を感じて安く上げてくれたじゃないですか。松本議員から指摘ありましたよ。今やっている千徳の跨線橋の問題にしたって、ちんたらちんたらやっているわけですよ。そういうことではだめだ。だからJRさん、我々公共事業体で復旧工事は入れますから、140億円あるいはそれを増すかもしれませんが、インフレスライドもありますので、しっかりと被災区間分については費用負担をお願いしますねという話をしてみたって悪くないですよ。結果としてこれでなきゃだめなら、それでいくしかないと思うんですけれども、私は逆に提案することも必要だということをおっしゃっております。

以上です。

○議長（前川昌登君） 皆さんからいろいろご意見をいただきましたが、交渉はまだこれから続くということでございますので……

〔発言する者多し〕

○議長（前川昌登君） この件はこれで終わりにしたいと思います。

説明員の方は……。

〔落合議員「議長、判断を求めるために議論しているんですが。手を挙げているんだから当てたら。議会の総意をきょう決めたいんでしょう」と呼ぶ〕

○議長（前川昌登君） いろいろご意見を伺って……

〔落合議員「後日またやるの」と呼ぶ〕

○議長（前川昌登君） まだ交渉しているとのことですから。

〔落合議員「いやいや、そうじゃない。来週にでも」と呼ぶ〕

○市長（山本正徳君） 意見聞きましょう。

○議長（前川昌登君） どうぞ、落合議員。

○20番（落合久三君） 議長はちょっと変だよ。同僚議員の皆さんにも訴えたいです。私は竹花議員等の意見も、田中議員の意見も、あとは茂市さんからはいいのではないかとこのを含めて、市長が冒頭言ったように、なぜ今全協を開いたかといえば、きょう判断をしたいということですよ。いい悪いを含めて、率直に意見出しましょうよ。黙っていないで、いいならいいでちゃんと言わないと、市民はこの議論聞いているんですよ。

それで、私の意見。ちょっと結論的に言えば、こういう状態で本当に三鉄でいくんだということを本当に決めていいのかどうかという非常に心配があります。何が心配かと言えば、こと細かいことではないです。

1つ、収支の見通しがどうなるかというのは、現状では全くわからない。いや、全くって、ほとんどわからないでしょう。企画課長、前提になる資料がないからなんです。私はそういうもつで、市民の負託にんて、宮古市の代表として、これにいい悪いという判断を本当に出せるんでしょうか。私は余りにもそこがないんじゃないか。なかったらもうちょっとこれをきちんと出すべきでないかというのが1つ。

2つ目は、先ほどから言っている維持管理費、ランニングコスト、これも詳細なことをどうのこののじゃなくて、一言で言えば優良企業であるJRがやっても間違いなく赤字続きの路線を引き継ぐんでしよう。それを少しでも赤字幅を縮小するためには、例えば田中議員が提案している、盛岡、宮古の間に快速電車をもう一回配置する、ダイヤを直す。こういうことをちゃんとしないと、南北の三陸鉄道には連結しませんと私は思います。そういうことをJRが検討するのかもしれないのか、再三もう答弁しているから、ああ大変なんだなど、口開かないんだなというのはわかりますよ。だったら、そういう口を開かない状態で自治体と三鉄にだけ判断を求めるといふのは、順序が逆じゃないかというふうにやっぱり聞くべきだと思います。

私は、甲があつて乙があるわけだから、そういうやりとりがなんでこう、市長はそれはもう重々わかる、重々わかると思うんですが、そういうことがちゃんとしていない以上、私の結論はこの年内に開かれる、年内といたつてもう何日もないわけですから、沿線市町村首長会議を現時点では延期を申し入れたらどうです。そして、もうちょっと情報を可能な限りやつて、来週やつてもいいんじゃないですか、もう1回。私はそういうふうに思います。そういう判断材料が皆目見当つかない状態で、政治判断だ、見切り発車だみたいにして決めるのは責任持てない。私は持てません。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） ですから、そういう気持ちは重々わかります。もう3年も私も落合議員と同じような立場でやつてきているんです。でも、出ないんです。だけれども、このくらいの条件がついてきたならば、今走らせなければ、今工事に入らなければ通りません。通らなくてもいいんだつたらば、ずっとやつていてもいいかもしれません。でも、今決断してここで通さないと、工事しないと宮古と盛岡の間は通らないと思います、私は。ここ3年9カ月やってきました。これも出せ、あれも出せ、どうなつているんだ。でも、出ない。でも、やつと出てきたのはこの6項目。この6項目の中で、私たちがイニシアチブをとつてここを運営していかない限り鉄道は通らないと、私は今本当に思っています。皆さんが言うことも、一つ一つがそのとおりで。だけれども、それでは鉄道は通りません。ぜひともお願いします。

○議長（前川昌登君） 落合議員。

○20番（落合久三君） 市長の気持ちはそれこそ私も重々わかります。いいですか。年内、来週開かれるこの沿線首長会議で結論出さないと鉄道は通らないと言いつりましたが、JRからそういう何か担保でも突きつけられているんですか、逆に聞きますが。年内この沿線市町村会議で結論出さなければJRは一切手を引くと、そういうおどしでもかけられているんですか。市長がそこまで断言するからには、何かそういう期限を切つた密約でもあるのかと逆に疑いたいですよ。答えてください。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） これは私の政治判断です。

〔発言する者あり〕

○市長（山本正徳君） そうです。

〔「お互いに冷静にいきましょう」と呼ぶ者あり〕

○市長（山本正徳君） いや、私は冷静です。声が大きいだけでございます。

本当に今決めないと、できないと私は……

〔落合議員「私の質問に教えてください。JRのほうからそういうふうに行われているのかと聞いているんです」と呼ぶ〕

○市長（山本正徳君） 言われておりません。言われてはおりませんが、私はここで決めないと決まらないというふうな私は判断をしております。

以上です。

○議長（前川昌登君） 加藤議員。

○27番（加藤俊郎君） 私どもの宮古市議会は、JR復興対策特別委員会を設置して、るる協議しながら提案までいきました。それで、その中で大事だったことは、BRTは阻止しましょう。あくまでも鉄路での復旧を絶対的に望む。あと、そういうハード整備は鉄路での復旧をぜひ望むということと、そのほかにソフトとしてやっぱり我々がみずから利用するような、そういうようにしていこうというような結論を出したような気がしております。

さらに、ただいま市長も話したとおり、いつまでもごたごたやっているようなことではなくて、収支をすぐ出すというのは、けっこうこれは難しい判断になると思う。将来人口推計とか、あるいはまたそれに伴っての利用人員がどうかとか、交通体系がどうなっていくのかとか、道路整備になっていってどうなるのかとか、いろんな不確定要素がある中で、収支に対してすぐ出せというのはそれはちょっと難しい話です。だから、やっぱりこれは政治判断で我々はそれでいくしかない、そういうふうには私は考えておりますので、市長は自信を持って進めていただきたい、そういうふうを考えます。

○議長（前川昌登君） 茂市議員。

○24番（茂市敏之君） この問題につきましては、市長だけやってきたわけではなくて、我々議員もそうですけれども、県会議員、県知事、そして国会議員の先生方にも働きかけをいただいて、やっとここまでたどり着いたと私は思っております。それを、これはいろいろまだ問題はあろうけれども、ここで決めるというのが市長の本当に高度の判断ということに私たちは理解すべきだと。それをこれがまだこうだからどうの、ああだからどうのというのは決まるものを決まらない、私はそう思っていましたよ。どうぞ同僚議員の皆さん、こころで判断すべきだと、私はそのように思います。

終わります。

○議長（前川昌登君） 皆さんからいろいろご意見は出ましたけれども、きょうの説明はこれで終わって、市長の判断にお任せしたいということで、どうでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） 異議なしということで、今後の交渉については市長が十分にこれらの意見を踏まえた上で、何とか鉄路を復興できるように頑張っていただきたいというふうに思います。

この件については、これで終わります。

○

説明事項（2） その他

その他のほうですけれども、総務常任委員会のほうに新市建設計画についての説明があったようでございますので、竹花委員長から内容についての説明を申し上げたいということでございます。

竹花総務常任委員長。

○21番（竹花邦彦君） 議長にお計らいをいただきまして、過般、先週の12日に山崎企画課長のほうから、新市建設計画等の変更に係る説明を常任委員会として受けました。

きょう、実は落合議員が一般質問の中で、いわば新庁舎建設に係る合併特例債等の関係で質問があった際に、課長のほうから総務常任委員会のほうに説明をしているというお話がありましたので、若干報告をし、今後の問題もありますので、発言をさせていただきたいということで、お許しをいただいたものでございます。

12日に総務常任委員会に総務企画部のほうから話があったのは、一つは新市建設計画の変更を予定をしている。これは、12日は現状報告ということでありまして、来年の3月議会で議案を含めて改めて議会のほうに説明をしたいというお話がありました。したがって、改めて来年の3月議会に新市建設計画の変更、あわせて合併特例債の、きょうも議論がありましたが、発行見込み額の変更等について議会に説明がされるというふうに思っております。

きょうの議論でもありましたが、新市建設計画は5年間延長したいというのが今現状での市の考え方でありまして。合併特例債についても、きょう議論がありましたが、発行限度額の160億まで、いわば広げたいという状況が話をされたわけでありまして。そこで、総務常任委員会としても、いわば現在、今年度末で86億700万円発行済みだというお話もきょうありましたが、これからのやっぱり合併特例債事業がどういうものが予定をされて、見直しすべきもの、つまり廃止も含めて、こういった事業計画も含めてやっぱりしっかり示すべきだと。合併特例債の発行額は全部使うよというだけではなくて、どういう事業が、これから陸上競技場も含めて合併特例債の発行が予定をされているわけですが、これからそういう事業が行われるもの、やろうとしていたけれどもやめるべきもの、こういったものも精査をして、きつと3月議会における議案、あるいは説明の際にはしっかりそういった資料もあわせて整理をして議会のほうに説明をしてほしいということは、担当課のほうには申し添えておいたところであります。

したがって、3月議会の中で、私たち総務常任委員会としても内容的には議員全員協議会で説明を受けるべきものということも十分に考えられますので、ここは総務常任委員会と担当課の中で判断をさせていただいて、必要であれば、多分そういう方向になるだろうというふうに思いますが、議員全協の中であわせて新市建設計画の変更、合併特例債の発行限度額の問題等々については議員全協の中で説明をすることになるだろうと、個人的にはそう思っておりますので、そういうことも含めて一応総務常任委員会として説明を受けたと。正しくは3月議会でのそういう提案説明になる、場合によっては議員全協で説明をすることにもなるだろうということも含めてお話をしておきたいというふうに思っておりますので、よろしくお申し上げます。

以上です。

○議長（前川昌登君） 加藤議員。

○27番（加藤俊郎君） 質問というわけではないんですが、合併特例債は皆さんご承知のとおり、新市建設計画があつての合併特例債というふうに理解すべきなんですが、新市建設計画で今竹花総務常任委員長がお話したように、86億円が今まで使い切れてきた。私の記憶では田老地区の津波記念館だったか、津波科学館だったか、そういうのも合併特例債を利用しての整備するのだという計画がありました。あるいはまた新里地区では源兵衛平の星を何とか見る何とか施設とか、何とかと、結構大きい特例債を使う事業も含まれておりました。そういうことも、もう一度精査するという意味でも、全員でやってもいいのかなというような気がしますので、大胆に見直しをするべき、時期的にはもうちょっと遅いけれども、やるべきだなというふうに思っておりますので、

よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（前川昌登君） 全協のほうで、見直しについては検討することによろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○

閉 会

○議長（前川昌登君） ほかになれば、きょうはこれで終わります。

大変ご苦勞さまでした。

午後 4時27分 閉会

○

宮古市議会議長 前 川 昌 登